



2020 ねん

10・11 がつごう



しもうまとしょかん こどもしつはっこう



10がつのカレンダー

11がつのカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

■としょかんのおやすみの日

△午前9時～午後5時までの開館

○おはなし会の日 午後3時30分から

10月、11月の水曜日のおはなし会は、感染症の防止のため定員を5組といたします。

あかちゃんおはなし会と土曜日のおはなし会はおやすみです。

* おうちのかたへおしらせ *

しもうまとしょかんは10月1日～11月20日の間、改修工事のためカウンター業務のみとなりますが、1階子どもコーナーと新聞・雑誌コーナーは10月10日から利用できる予定です。



ご来館の際は図書館ホームページをご確認ください。

☺ 「かたさせ すそさせ さむさがくるぞ」

** 秋の夕べ、虫の声がきこえますか? **

夕方になると、道ばたや庭の草むらから、虫の声が聞こえる季節になりました。

昔から日本では、たとえばコオロギは「かーたーさーせー、すーそーさーせー、さーむーさーがー、くーるーぞー」と鳴いているとも言われてきました。

「肩させ、裾させ、寒さが来るぞ」とは、冬がくる前にきものの肩や裾をしっかりとあし、わたを入れてあたたかくして、寒さにそなえましょうという意味だそうです。

*子どもコーナーには虫の本もたくさんありますので読んでみてください。



にほん ぶんか しら 日本の文化について調べてみよう。

はらぺこしんぶんの6, 7月号でもごしょうかいした衣替えですが、秋にも衣替えがあります。秋の衣替えは10月です。秋～冬に着る長袖などの洋服を準備します。

これは、むかしからある行事のひとつです。

日本にむかしから伝わっている行事には、衣替えのほかにも、お祭りなどもあります。興味のある人は行事についての本を探してみましょう。図書館のOPAC(利用者用検索機)でも調べることができます。



←これがOPACの画面です。指で右下の“こども用へ”を押します。今回は“ほんのなまえ”に「ぎょうじ」や「いしょくじゅう(衣食住)」を入れてスタートを押すと、のっている本が出てきます。レシートの紙を出すとどの図書館にあるかわかります。



日本の文化について書かれている本を読んでみよう！



『日本のしきたり絵事典 行事や儀式の「なぜ？」がわかる 衣食住から年中行事まで』
深光富士男 著 武光誠 監修 (PHP研究所) J38茶

「第2章 季節のしきたり」に、ころもがえのことが載っています。なんと、平安時代から行われていたそうです。この本にはほかにも、タタミのへりをふまないで、と言われるのはなぜか？ダルマが赤いのはなぜか？土用の丑の日にウナギを食べるのはなぜか？などの話が載っています。

『日本のくらしの知恵事典』神野義治 監修 (岩崎書店) J38茶黄

この本には、昔から日本にあるもので今でも役に立つことがいろいろ書かれています。例えば、ウルシの木から取れる樹液をぬって作られた漆器。熱い汁を外国ではスプーンで飲みますが、日本の漆器は軽くて熱い汁を入れても持てないほど熱くならず、器に口をつけて飲むこともできます。なぜなのか知りたい人は本を読んでみてください。



『絵でわかる社会科事典6 衣食住の歴史』鎌田和宏 監修 (学研教育出版) J30茶黄

古代から現代までの衣食住の移り変わりが絵でかかれていますので、とても見やすくなっています。昔はくだものをお菓子として、身分の高い人が食べていましたが、今ではスーパーやコンビニでいろいろなお菓子をだれもが買えます。

私たちが食べているお米は、古代、黒米、赤米、玄米が食べられていました。玄米は今でもお店で売られていますが、昔のお米はどんな味がしたのでしょうか？

『絵本ごよみ二十四節気と七十二候 美しい日本の季節と衣・食・住-秋-すずかぜがふけ』坂東眞理子 監修 (教育画劇) J44 緑

この本のシリーズは春・夏・秋・冬の全4巻です。秋の本には衣がえのことが載っています。また、昔は秋ならではの色があり、この時期の植物のモミジ、葉、おみなえし(秋の七草の一つ)、白菊を使って布を染めて色を出したそうです。その時代は衣(着るもの)のこと。昔は着物の表と裏で色をかえておしゃれを楽しんでいたことがわかります。

